



モユク★カムイ 127

NO.

January 2026

●モユク・カムイとはアイヌ語で「エゾタヌキ」のことです。

ASAHIYAMAZONNEWS

あさひやまどうぶつえんニュース



カバ

Hippopotamus amphibius

もくじ

ぼくは動物大使 その88
今年の干支!? カバ「河[馬]」1.2

特集 雪の上の足跡3.4
～実は奥が深すぎるアジアの世界～

飼育研究レポート かば館の展示物5

飼育派遣研修を終えて6
～道内の動物園の飼育員お二人が旭山で研修をしました～

主なできごと・編集後記・飼育動物数7

カバ

学名 *Hippopotamus amphibius*

分類 偶蹄目 カバ科

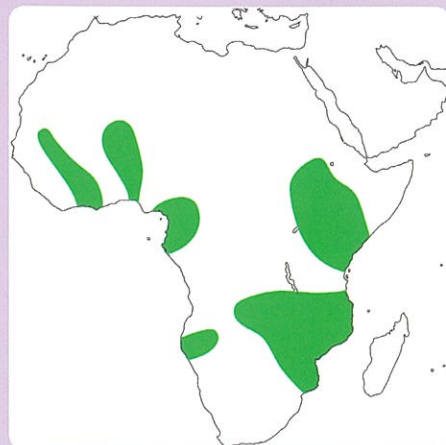
絶滅危惧であり、現在は危急種 (VU) となっている。原因として牙を目的とした密猟や、農地開拓による水辺の環境変化などがあげられる。

夜行性であり、昼間は水辺でじっとしていることが多い。日が沈むと活動をはじめ、1日に30～40kgもの草を食べて生活している。

体重はオスで2,600kg前後、メスで1,600kg前後。陸上の生き物ではゾウに次いで2番目に重たい。

カバの分布

サハラ砂漠以南の
アフリカ大陸



■ 分布している場所

ぼくは動物大使 今年の干支!?

その88

カバ『河【馬】』

顔

耳・目・鼻が横一直線に並んでおり、水面から少し顔を出しただけで音を聞き、呼吸をし、周囲を観察できる。水中では耳と鼻孔を閉じ水の侵入を防いでいる。



血の汗

血でも汗でもない分泌液。乾燥や日焼け、細菌感染を防ぐ効果がある。

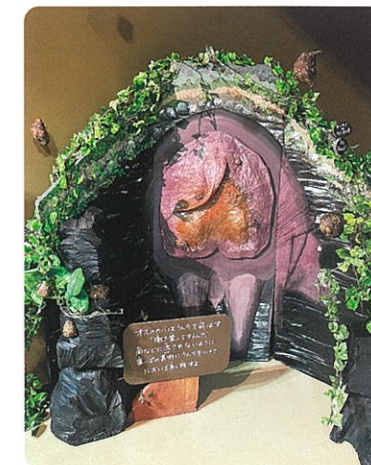


顎はほぼ180度開く。
カバ同士の軽い喧嘩の際には、口の大きさを勝負をする。



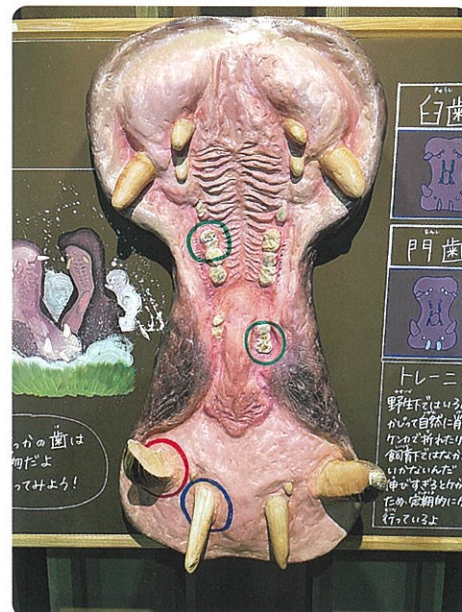
撒き糞

なわばりの主張や個体同士の優越の証明、住処への道標として撒き糞を行う。糞を撒くことで、葉の裏側に付着させ、大雨でも匂いが流れ落ちないようにしている。オスメスどちらも行うが、メスは上手く飛ばせないため目立たない。



歯

戦いの際に用いる強靱な犬歯(赤○)。草をすりつぶす臼歯(緑○)。土を掘り返す門歯(青○)。それぞれ役割がある。歯の総数は40本で、スカスカに見えるが人間よりも多い。挨拶や喧嘩で歯をぶつけ合う。



偶蹄目

河『馬』とついているが、馬ではなく牛に近い。(ウマは奇蹄目。ウシは偶蹄目。) 第三指と第四指の間にわずかな水かきが付いているが、決して泳ぐことはできない。ぬかるみに沈みにくくするため表面積を増やしているだけ。

凶暴獰猛危険

よく言われるのは、カバが実は獰猛や狂暴といったワード。

これは腑に落ちない表現です。

野生下では、カメやワニを背中に乗せて日向ぼっこさせてあげたり、鳥を口の中に入れて綺麗にしてもらったり、魚に古い角質を食べてもらったり、自分より小さく弱い生き物とこれだけ共生している生き物はそうそういません。そして弱い生き物たちはカバに危険から身を守ってもらっています。

あくまでカバは自分の身や仲間を危険から守るために戦っているだけなのです。

カバ バカ カバ

これもよく言われる言葉。カババカ。決してバカではありませんが、どうにもならなかったのかと思うこともあります。

目が上部についており、頬も出っ張っているため、普段は足元が見えず、口を大きく開けたときは正面が見えていないことが多いです。

プールに潜るとき回転しながら潜ることが多いですが、普通に潜ると底面が見えないため、回転することで下を確認しているのではないかと考えています。



雪の上の足跡

実は奥が深すぎるアジアトの世界

はじめに

雪が降り積もる季節となりましたが、みなさんは雪の上の動物の足跡を見たことがありますか？雪の上は地面よりも足跡がしっかりつきますし、雪原であれば葉っぱや木の枝など余計なものがないのでとても見つけやすいです。足跡は、普段は隠れている動物が「確かにそこにいて生きている」ということや、いたい「だれが」「どこで」「何をしていたか」のヒントを私たちに教えてくれます。せっかく雪国に住んでいるのですから、雪の上を眺めて足跡を探してみましょう。

足跡の分析 ～指タイプと蹄タイプ～

動物の足跡を見つけたときに、大きさに注目するのは一番大事ですが、その次に注目してほしいのは、指タイプなのか蹄（ひづめ）タイプなのかをまず判別し、その本数や形を確認することです。とても分かりやすい例を見てみましょう。



「指タイプ」の足跡（指は4本、かかとはない）



「蹄（ひづめ）タイプ」の足跡（蹄が2本）

指タイプの足跡は、小さいものから大きいものまで様々で、イヌ科やネコ科がその代表です。「指の本数」「爪跡があるかどうか」「かかとまで地面についているか」も動物の種類を判断するヒントになります。蹄タイプの足跡は、日本であれば小さいものが多く、その足跡の主はシカやイノシシなどの大型の野生動物である可能性が極めて高いです。（海外であれば大きい足跡もあり、カバ・トナカイ・ラクダなども考えられる）

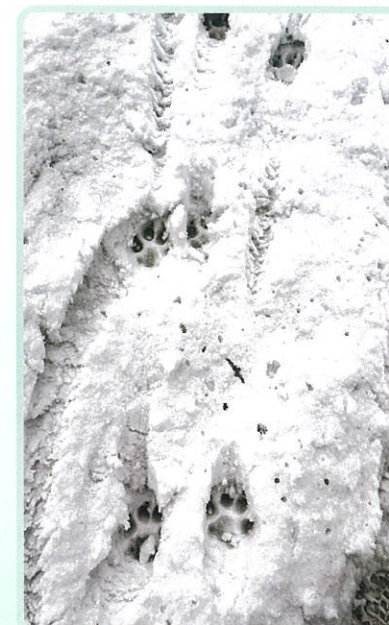
足跡の分析2 ～歩き方タイプやスピード～

動物の歩き方は、足跡のつき方に大きく関係しています。イヌ科やウシ科といった、四足歩行する動物は全て、「左後足→左前足→右後足→右前足※またはこの逆」の順番で足を運ぶことで共通しています。

しかし足跡となると動物によって異なり、前足の足跡が後足の足跡に重なって隠れてしまったり、駆け足になると左右並んだりします。リス科やウサギ科といった小動物は跳躍歩行であり、その足跡は進行方向に対して、後足が前方、前足が後方となり、一般的なイメージと逆になるなんてこともあるのです。



四足歩行（前・後足重なり）



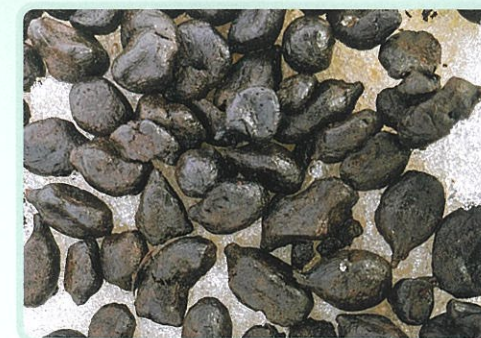
四足歩行（おそらく駆け足）



跳躍歩行

アニマルトラッキング入門 ～様々な痕跡から推理する～

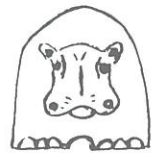
足跡を見て動物の種類や行動を考えることをアニマルトラッキングといいますが、実際の野外活動では「動物のうんち」「食痕（食べた、かじったりした後）」など、足跡以外の様々な痕跡（フィールドサイン）も大きなヒントになります。



さいごに

「何の動物の足跡や痕跡なのか1つも書いてないから全然スッキリしないじゃないか！」って？ そんなモヤモヤが出たアナタ！

実は近々、旭山動物園で「足跡展」を開催する予定で、もっと奥深い、おもしろい足跡の世界を表現できるよう一生懸命準備中です。答え合わせはその時まで楽しみに！！



飼育研究レポート ～かば館の展示物～



動物の看板を担当者自ら制作する「手書き看板」。旭山動物園の見どころのひとつでもあります。飼育員は日常の飼育業務はもちろんその傍ら、館内外の展示物に力を入れて取り組んでいます。

昨年秋ごろから、平面のパネル以外にも実際に触ることのできる立体の模型を制作して展示しています。写真の物は実際のカバの口とほぼ同じ大きさで制作した立体模型で、本物のカバの歯を模型に埋め込んでいるので、触ることもできます。

立体模型は主に新聞紙とアルミホイルで土台を作り（最近では発泡スチロールを使用）、石粉粘土で形を付けていきます。形が出来たら紙やすりで気になる凹凸を減らしてから絵の具で着色、最後にニス塗ってコーティングして完成というのが作業の一連の流れになっています。粘土や絵の具、その他の費用を含めると本作で合計1万2000円程度の費用です。



使用したいろいろな道具

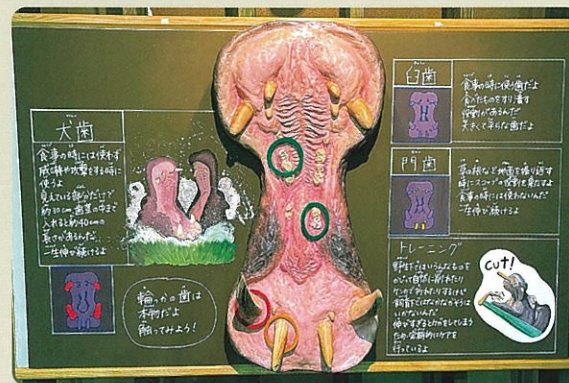


制作過程

元々はカバの口の平面のパネルを展示していましたが、実物のカバの歯を展示に活かしたいという思いや立体にすることで多くの方々の目に留まり、より深くカバのことが伝えられるのではないかと理由で制作しました。とは言え、いくらこだわりを出しても見られていないのなら意味がないので、平面のパネルと立体の模型どちらが見られている

のかを調査することにしました。

調査したのは内容が同じ【入口から最初に目に入る場所に設置した『平面のパネル』】と【カバを見るときに来園者が必ず背を向ける場所の『立体模型』】をチェックすることにして、平面パネルは説明書きを見ると1カウント、立体模型は説明書きを見る及び実物の歯を触るで1カウントとしました。



完成した展示物



1回目は、30分間計測で142人が来館。『立体模型を見て触った人は52人』『平面パネルを見た人は1人』でした。

2回目も、30分間計測で140人が来館。『立体模型を見て触った人は18人』『平面パネルを見た人は3人』でした。

この2つの結果から感じたことは、来館される方々の半数以上はそもそも看板を読まず、立体物であっても気付いてもらえないことが多い。ただ平面と比べると明らかに立体の方が見られているので、展示物にこだわりを持つのも少なからず効果はあるのではないかと感じました。

この結果を胸に、今後も来館される方々に動物のことをもっと知ってもらえるような展示物を引き続き制作していきます。

(きりん舎・かば館担当 清水駿之介)

飼育派遣研修を終えて

～道内の動物園の飼育員お二人が旭山で研修をしました～

11月におびひろ動物園と釧路市動物園の飼育員2名が旭山で飼育派遣研修を行いました。今回はその2名の方々から研修を終えて執筆をしていただきました。

おびひろ動物園 中山大志(たいし)さん

おびひろ動物園でニホンザルやエゾタヌキなど、日本固有の動物を担当しています。

今回は11月上旬の閉園期間中に、10日間の飼育研修をさせていただきました。

日々さまざまな飼育員につくことで、それぞれが考えやノウハウを持って園を支えていることを感じました。

閉園期間中の共同作業では、ニホンザルの全頭捕獲やエゾタヌキの健康チェックなどに参加し、「いきものと直に向き合う際の緊張と慎重さ」を通して、飼育現場の息づかいを感じました。

その中で、動物の行動展示や環境づくり、そして“伝えること”の大切さについて改めて学びました。

今回学んだことをおびひろ動物園も参考として、動物の魅力をもっと正しく、そして丁寧に伝えていきたいと思っています。

貴重な経験と時間をありがとうございました。



釧路市動物園 佐伯陽(ひなた)さん

釧路市動物園で飼育業務を担当しています佐伯と申します。

今回私は11月4日～7日までの4日間旭山動物園での飼育派遣研修に参加させていただきました。

研修では、日々の観察の大切さ、常に動物にとっての最善を考える飼育の姿勢に触れることができました。また、飼育員の皆さまが日頃から情報をこまめに共有し状況に応じて迅速に動いている姿が印象に残りました。

こうした日々の行いが作業の確実性につながっていることを実感し自分自身の観察力や判断力をより高めていきたいという思いが強まりました。

加えて、動物の行動を引き出す展示作りの考え方にも触れることができ、自分の飼育観を一段と深める機会にもなりました。

今回の経験は、自らの飼育に対する視野を広げ、技術と姿勢の向上につながる大変貴重な機会となりました。

今後は、学んだことを釧路市動物園で生かし、より質の高い飼育を目指していきたいと思っています。



主なできごと

- 10月19日 國學院大學北海道短期大学部 幼児・児童教育学科の学生による「もっともっと!どうぶつをすきになろう!!」を開催
- 10月27日 チンパンジーの「ユズ(メス)」が宮崎市フェニックス自然動物園より来園
- 10月29日 ホルスフィールドリクガメ「カメさん(メス)」老衰のため死亡



- 11月3日 夏期開園最終日
第28回わくわくゲーム大会開催
- 11月4日～10日
冬期開園に向けての閉園
- 11月4日 ボルネオオランウータンの「ドーネ(メス)」がいしかわ動物園より来園

- 11月7日 ボルネオオランウータンの「モカ(メス)」がいしかわ動物園に移動



- 11月10日 フンボルトペンギン NO.7 左肝臓腫瘍疑い
チンパンジーの「イブ(メス)」と「ニナ(メス)」が宮崎市フェニックス自然動物園に移動
- 11月11日 冬期開園日
- 11月23日 「あったかトーク2025」開催
トナカイ「ノエル(オス)」心不全のため死亡
- 11月30日 「旭川市にも外来種っているの?!～みんなで守ろう生物多様性～」開催

編集後記

2025年は全国的な猛暑やクマのニュースなど、人が自然や動物のことを考えていかなければいけないきっかけの年だったかなと思っています。

先日、旭川の夏が長くなってきているという報道もあり、どんどん環境が変わってきていますが、その環境を変えてしまったのが私たち人です。動物たちは、変えてし

まった環境に文句を言わず淡々と過ごしています。クマの報道などを見ていて、はたして動物だけが悪いのでしょうか?私たち人は何も悪くはないのでしょうか?そこを本気で考えていかないといけないと思います。

2026年は自然や動物にやさしい年であることを願っています。(佐賀)

最新情報は
ここでチェック!!



公式HP



Facebook



X
(旧Twitter)



Instagram



モユク・カムイ No.127 令和8年1月2日

- 発行所／旭川市旭山動物園
〒078-8205 旭川市東旭川町倉沼 ☎0166-36-1104
- 発行人／田村 哲也
- 表紙絵／原田 佳
- 編集／中田 真一・中村 亮平・佐賀 真一・大西 敏文・鈴木 達也
原田 佳・上江 昌弘
- 印刷／(株)須田製版：〒063-8603 札幌市西区二十四軒2条6丁目1-8 ☎011-621-1000



飼育動物数

令和7年11月末現在

- 哺乳類 41種・329点
- 鳥類 51種・281点
- は虫類 9種・31点
- 両生類 5種・31点
- 合計 106種・672点